

めっきらもつきらどおんどん

長谷川摂子 作
ふりやなな 画

福音館書店 1990年 800円

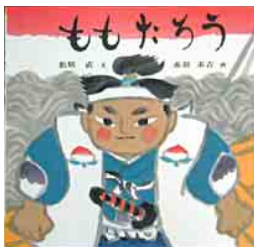


遊ぶ友だちがだれもいなくてお宮まで来たかんたは、「ちんぷくまんぷく…めっきらもつきらどおんどん」とめちやくちやな歌を歌いました。すると、奇妙な声が聞こえてきて、穴をのぞき込んだかんたは吸い込まれてしまいます。そこには3人の遊び好きの化け物がいて、モモンガーごっこなどをして遊びます。かんたが体験する不思議な世界が、勢いのある絵で表現されています。

ももたろう

まついただし 文
あかばすえきち 絵

福音館書店 1965年 1000円



ももから生まれたももたろうは、おじいさんとおばあさんにかわいがられて、かしくて力持ちの子に育ちました。ある日、ももたろうは悪さをする鬼の話を聞き、鬼退治を決心します。そして、日本一のきびだんごを腰に下げ、犬、猿、きじをおともにし、鬼が島へのり込み、鬼を退治して戻ってきます。数多くあるももたろうの絵本の中でも、色鮮やかで力強い日本画で描かれた特に美しい絵本です。

やこうれっしゃ

西村繁男 作

福音館書店 1983年 800円



上野発金沢行きの夜行列車が目的地に着くまでの冬の1晩を描いた字のない絵本です。混雑する上野駅、トランプをしたり、おしゃべりしたりとにぎやかな車内がだんだん寝静まり、終着駅が近づいて人々が身支度をし、列車を降りて行くまでの様子を時間を追って丁寧に描いています。思い思いに旅する人々の表情やしぐさは見飽きることがなく、自分も旅をしているような気分になります。